

Fonda Shingaku Juku
News

朝日新聞 全国版に 菅田進学塾が掲載されました!

2008年11月3日発行の朝日新聞全国版の特集記事『公立中高一貫の波紋』の記事の中で、菅田進学塾が紹介されました。

県立千葉中学適性検査対策講座 TOP、県立千葉中適性検査シミュレーションテスト **TOP-S** での抜群の合格実績が注目されての取材だったようです。「県立千葉中適性検査なら菅田進学塾」と多くのマスコミからも注目されています。

3 曜日 享月 日 薬片 局 第3種郵便物認可

新学歴社会

選択のとき

公立中高一貫の波紋

「入るための訓練」かさむ出費
 「受験は
 一貫校の公立中入試について、教委や学校は「適性検査」「受験」と呼ぶ。「受験」とに変わりはない。公立中入試は「適性検査」として実施している。学力試験は行わない」という文科省の方針を踏まえた表現だ。確かに難しい計算や膨大な

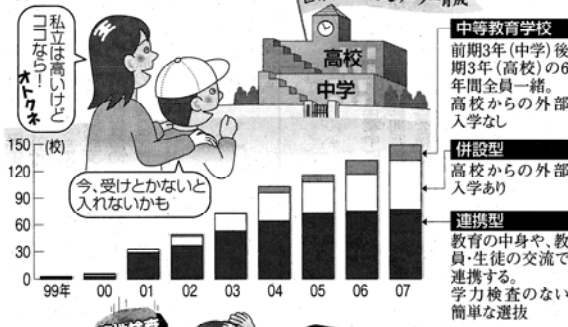
な暗記が求められる。一部の私立の入試とは異なる。図表や写真を示し「考える能力」をみるものが中心だ。しかし、小学校の勉強だけでは、学費や寄付金を除いても1人平均で約48万2千円を学校に払っていた。一方、公立の中高は約14万2千円と、分の1以下で済む。ただし、入るための出費はかさむ。ベネッセの07年の調査では、一

貫校の公立中を第一志望にする首都圏の小6生の学校外教育費の平均は月3万6000円、月10万円以上の家庭も7%あった。千葉市の主婦(41)の小6の長男は千葉中を目指し、対策講座を週3回受けている。しかし、競争率をみて「自信が無くなくなった」。主婦も「こんな早くから選別されてかわいそうに」と思う。「挫折感はいわねえ……」。

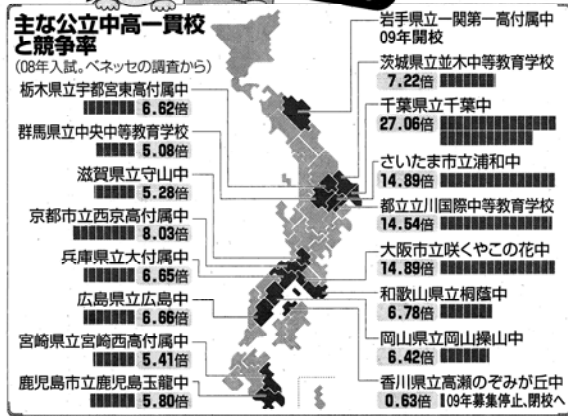
「公立中を第一志望にする首都圏の小6生の学校外教育費の平均は月3万6000円、月10万円以上の家庭も7%あった。千葉市の主婦(41)の小6の長男は千葉中を目指し、対策講座を週3回受けている。しかし、競争率をみて「自信が無くなくなった」。主婦も「こんな早くから選別されてかわいそうに」と思う。「挫折感はいわねえ……」。

「公立中を第一志望にする首都圏の小6生の学校外教育費の平均は月3万6000円、月10万円以上の家庭も7%あった。千葉市の主婦(41)の小6の長男は千葉中を目指し、対策講座を週3回受けている。しかし、競争率をみて「自信が無くなくなった」。主婦も「こんな早くから選別されてかわいそうに」と思う。「挫折感はいわねえ……」。

増える公立の中高一貫校



世界中に通用するリーダー育成
 中等教育学校 前期3年(中学)後期3年(高校)の6年間全員一緒。高校からの外部入学なし
 併設型 高校からの外部入学あり
 連携型 教育の中身や、教員・生徒の交流で連携する。学力検査のない簡単な選抜



旧文部省が公立の中高一貫校の開設を可能にしたのは99年。そもその出発点には、6年間を弾力的につなぐことでゆとりと個性がある学校生活を実現できる、という理念があった。しかしその理念は、「学力向上」の逆パネの中、大きく変わりつつあるように見える。

先頭を切ったのは東京都だった。05年、「リーダー」とな

東大合格者数、私立と競う

競争率27.06倍
 この春にあった「公立中学」の入試の話だ。
 有名大学への進学実績から

首都圏の「公立高校御三家」とも呼ばれる千葉県立千葉高校、千葉市。その千葉高校が、公立中高一貫校化することにな

り、「県立千葉中学校」を今春、同じ敷地内に開校した。一期生の定員は80人。高校

入試問題は難しい。豆腐に7回包丁を入れてきい目に切る場合、切り方が違えば、豆腐の厚さが違って答える。司馬遼太郎の文章を読み解くなどして「みんなが仲良く暮らせるようにする」ための具体策を300〜400字で記述する。高一にこんな問題に次々と答えなければならぬ。

あしたを考える

「ゆとりと個性」
 理念は